

Title	スペイン語における定冠詞の代名詞的用法について
Author(s)	長谷川, 信弥
Citation	Estudios Hispánicos. 1991, 16, p. 51-59
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97919
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

スペイン語における定冠詞の

代名詞的用法について¹⁾

長谷川 信 弥

0. 本稿で取り扱うのは、スペイン語において、伝統的に「定冠詞の代名詞的用法」と呼ばれてきたものである。

(1) *El libro de Pedro es rojo, pero el de María es negro.* (江藤(1983))
本稿ではこの用法について、他のロマンス語の例を概観し、次いで、これが「代名詞的」であるとする伝統的な解釈と *el de María* において、本来 *el libro de María* であったものからの *libro* の省略であるとする最近の解釈を紹介、検討し、実際の用例からその使用状況を見てゆくことにする。

1. 他のロマンス語の概観

この用法はロマンス諸語の中でも、特にイベリア半島の言語に特徴的なものであって、(1)をフランス語では、(2)のように、まさに代名詞を使用した言い方をしている。

(2) *Le livre de Pierre est rouge, mais celui de Marie est noir.* (Ibid)

この場合、次の(3)の様な言い方のとき同様に、単に代名詞の用法のひとつとして説明できる点が、前置詞を伴うときは *el de~* の場合にしかこの用法を用いることのできないスペイン語とは異なっている。

(3) *le vin pour la consommation et celui pour l'exportation*

(目黒(1981), p. 179)

また、イタリア語もフランス語と同じく代名詞を用いた言い方のみが許されている。これについては、Carrera Díaz (1984) が(4)のようにそのスペイン語訳を併記しているので分かりやすい。

(4) *Hai comprato delle riviste nuove ?*

Quelle della settimana scorsa le ho già lette.

”¿ Has comprado revistas nuevas ?

Las de la semana pasada ya las he leído.” (p. 85)

これからわかるように、イタリア語でも代名詞が用いられているため、スペイン語の場合のような議論の余地はないように思われる。

イベリア半島において特徴的なこの用法は、ポルトガル語、カタロニア語においても頻繁に見ることができる。

まず、ポルトガル語ではスペイン語と同じ用い方をする。

(5) A casa de Maria é menos confortável (do) que a de Celina.

(富野(1981), p. 70)

さらに、カタロニア語でもスペイン語と同じ用い方をする。

(6) jardí més espaiós que el d'ells ”jardín más espacioso que el de ellos”

(Badia i Margarit (1975), p. 153)

さて、カタロニア語ではスペイン語のように中性冠詞は存在するが、その形態は定冠詞男性単数形のそれと同じである。そのため、曖昧さが生じる場合があり、後述することになる *lo de ayer* や *lo que ~* などスペイン語で中性冠詞を使用する場面で、カタロニア語では代名詞を用いた言い方のほうがよいとされている。

このように、イベリア半島に特徴的な用法ではあるが、これら3つの言語間にもやはり用法の違いがあり、個々の言語について、検討をしていかなければならない課題であるといえよう。

2.1. 代名詞と解釈する考え方

この用法の冠詞が代名詞であると解釈する考え方のいくつかの根拠には、まず指示代名詞との平行性が挙げられている。江藤(1983)では、(7)と(8)を比べたとき、*el de María* の *el* と *este de María* の *este* が平行であることがわかり、この *este* は明らかに代名詞であることから、”*el* は文脈の中の指示代名詞というか代用代名詞” だとしている。

(7) El libro de Pedro es rojo, pero el de María es negro. (= (1))

(8) Este libro de Pedro es rojo, pero este de María es negro.

さらに、(9)、(10)と(7)を比べて、*el negro* と *el de María* との平行性が

ら *de María* を「形容詞類」であるとしている。

(9) *El libro rojo es de Pedro, pero el negro es de María.*

(10) *Este libro rojo es de Pedro, pero este negro es de María.*

つまり、*María* は前置詞 *de* によって形容詞化していると解釈するのである。この解釈には無理があろうが、ここでは詳述を避け、*el* が代名詞と解釈されている点だけに注目しておくことにする。

さて、この解釈に沿って考えてゆけば、さきに述べたように、*lo de ayer* など、中性冠詞 *lo* の場合の表現 *lo de ~* または *lo que ~* においては、前に出た名詞の繰り返しを避けるための省略という考えは成立しにくく、代名詞と解釈したほうが、*el de ~* の *el* を代名詞と解釈する考えと合致し、統一的に説明できることになろう。江藤(1983)は中性の指示代名詞の文との平行性 ((11)(12) から、やはりこの解釈が支持できるとしている。

(11) *¿Y qué me dices de lo de ayer?*

(12) *¿Y qué me dices de eso de ayer?*

そして、*lo* と指示代名詞との違いは指示性の有無であるとしている。

このように、*el de ~*、*lo de ~* を代名詞と解釈する考え方のよりどころのひとつは、他の代名詞との平行性であることがわかる。

また、Luján(1972) は、*lo* の解釈においては平行性というよりも他の代名詞と相補分布をなしているからだと主張している。

(13) *Lo que es bueno no es obvio.*

(14) **Ello que es bueno no es obvio.*

(15) *Ello no es obvio.*

(16) **Lo no es obvio.*

(17) *Ella se casará por dinero.*

(18) **La se casará por dinero.*

(19) *La que es ambiciosa se casa por dinero.*

(20) **Ella que es ambiciosa se casa por dinero.*

((13)-(20), p. 168)

つまり、(13)から(16)においては、*lo* と *ello* が相補分布をなし、(17)から(20)では、*la* と *ella* が相補分布をなしていることから、*lo* と *la* はそれぞれ *ello* と *ella* の弱形となり、同様に *el* も *él* の弱形となるという主張を展開し、これは制限節の前の強形の代名詞の第一音節の削除という変形規則によっ

て派生したものであると述べている。しかし、例えば、(19)と(20)を比較した場合、(20)の解釈は次の(21)のようにしかならないはずで、それぞれの文のもつ意味は異なってしまうであろう。

(21) *Ella, que es ambiciosa, se casa por dinero.*

よって、単純に *la* と *ella* が相補分布をなしているというのは、少々乱暴に過ぎると言わざるをえない。

2.2. 省略の考え方

いままで見てきた、代名詞としての解釈に対して、もうひとつの考え方は、省略という考えである。

Brucart (1987) は部分的省略 (*elipsis parcial*) の考えを取り入れ、(22)のように、名詞句の主要部 (*head*) が省略され、その補部 (*complement*) や指定部 (*specifier*) は、そのままの音形を保っていると解釈する。

(22) *La película de Wenders me entusiasmó y [SN la e de Woodie Allen] tan sólo me distrajo.*

(p. 293)

そして、この主要部が省略される条件は、先行する(名詞句内の)名詞と同一の形のものであり、かつ、その先行する名詞とは異なる指示指標を受けなければならないとしている：

"... el SN *la de Woodie Allen* ha de recibir un índice referencial distinto del que corresponde al SN que contiene el <antecedente>."

(p. 294)

Brucart は、Grinder & Postal (1971) の主張する "Identity of Sense Anaphora" という考えを紹介し、<*anáfora de correferencia*> (同一指示の前方照応) に対立する <*anáfora de identidad de sentido*> (意味の同一性の前方照応) によって省略が成り立つと考えている。これに従えば、(23)、(24)も同じく、名詞句の主要部の省略として解釈することになる。

(23) *¿Te quedas con ese jersey azul o prefieres [SN el verde]?*

(24) *La tesis que estoy leyendo y [SN la que acabé la semana pasada] tratan de los mismos problemas.*

(p. 324)

省略という考え方は以上のような基準に基づいて説明されており、この

え方をポルトガル語のこの現象にあてはめた池上(1987)の主張も同じものであり、納得できる：

” 代名詞は機能から言えば、名詞とひとしく主語、目的語などの役割を果たす。しかし代名詞は名詞の代りをつとめるのではなく、修飾語句を伴わぬ名詞あるいは冠詞を伴わぬ固有名詞を最小構成要素とする「名詞句」(sintagma nominal)全体の代りをつとめるものである。

この場合、重要なことはある名詞句(名詞ではない)が指示するものと代名詞の指示するものが必ず同一(idéntico)でなければならないということである。” (p. 76)

” 二つ(あるいはそれ以上)の名詞句が(たとえば一つの文のなかに)あるとき、それぞれの名詞句の核となっている名詞のかたちがひとしく、それらの名詞によって指示されているもの(referente)がたがいに異なっていれば、二番目(以降)の名詞は省略することができる。”

(p. 78)

さて、代名詞と解釈する考えには賛同者が多いにもかかわらず、このように、省略だとする解釈の方が筆者にはより説得力があるように思われるのだが、この考えにとっての問題点は(11)の *lo de* ~ や *lo que* ~ のいわゆる中性冠詞の扱いであろう。この中性冠詞については、数多くの議論がなされてきた²⁾。中性名詞が存在しない以上、“中性冠詞”という名称そのものも議論の対象となろうが、ここではそういった議論を詳述するよりも、ここまで紹介した二つの考えに沿って、それぞれのこの *lo* の解釈をみてゆくことにする。

lo を代名詞と解釈するためには、*el de* ~ のときと同じく、中性代名詞 *eso* などとの平行性を考えればよいことになろう。つまり、*lo* は冠詞ではなく、代名詞であり、名詞句の核(または主要部)と考えるわけである。一方、省略の考えに従えば、名詞句 *lo de* ~ は主要部が省略され、*lo* は冠詞であると解釈されることになろう。この場合、省略された主要部は、*el de* ~ のときに省略された主要部が意味の同一性の照応によって復元可能であるのとは異なり、例えば *ocurrido* などの語を自動的に復元させるような、または単に主要部ゼロ(null)の名詞句であると解釈させるような考えを導入することで解決することになろう。

このように、二つの対立しているかのように見える解釈もいわば「立

場の違い」であって、一方が他方を否定するような考えではないように思われる。繰り返せば、今のところ、筆者には省略という考え方がより説得力あるものに思われるので、この立場に沿って、実際のテキストから採集した用例を観察してゆくことにする。

3. 資料体の観察

まず、現代語において、資料体³⁾としたなかから採集した例は45例である。結果は次の通り：

el de (al de も含む)	: 15
los de	: 4
la de	: 24
las de	: 2
lo de	: 0
	計45例

わずかではあるが、これらの例から観察できることを述べてみたい。

1) 不一致の例 (5例)

省略されているものと、その元となる名詞間で、数の不一致がみられるものがある。

- (25) Al mismo tiempo, repartidos por toda España continúan vivos numerosos focos ; algunos de ellos, ya controlados, como el de Valencia, deja tras de sí 1.500 hectáreas de monte arrasadas por los incendios.
(PAIS, p. 16)

興味深いことは、性の不一致の例がないことである。このことに関しては、三木一郎氏のおこなったアンケートの結果⁴⁾があり、それによると、(26)のように、単数→複数、その逆、という数が変わったものは適切な文となるが、(28)(29)において、性を替えると不適切な文になるという。

- (26) El amigo de Antonio y los de Pedro van de excursión.
(27) Los amigos de Antonio y el de Pedro van de excursión.
(28) El amigo de Antonio y la de Pedro van de excursión.
(29) Los amigos de Antonio y las de Pedro van de excursión.

2) 一番近いものを受けてはいない例が1例あった。(30)で省略されているのは *situación* ではなく *inflación* である。

(30) En la inflación de los últimos doce meses, la situación también es algo mejor. El pasado año ésta se encontraba en el 4.7% y este ejercicio se ha reducido al 6.2%, tres décimas inferior a la de junio último (6.5%). (PAIS, p. 23)

3) 先行する名詞のない例が1例あった。

(31) Como todos los del comité de derechos humanos, ella está amenazada de muerte. (PAIS, p. 8)

この場合、省略されているのは、*miembros* などが考えられるが、文脈等より判断するしかない。

4) *el de* のあとに不定詞のくる例 (5例)。

(32) El objetivo sustancial es el de abrir el partido a la sociedad. (PAIS, p. 10)

ただし、これとは書き手が異なると推測されるが、(33)のように、この構文では必ずしも *el de* ~ になる必要はないようだ。

(33) El objetivo de la entidad aérea que preside Miguel Aguiló es cubrir el tráfico europeo de segundo nivel ... (PAIS, p. 25)

それどころか、この構文自体、義務的なものとはいえない例が多く見受けられた。

(34) La Europa del futuro, la del presente, es la Europa del mestizaje ... (PAIS, p. 11)

(35) Durante nueve meses habían gastado ese dinero centavo a centavo, repartiéndolo entre sus propias necesidades y las necesidades del gallo. (García Márquez, p. 28)

これらの観察から言えることをまとめてみると、先行する名詞と性を違えることはできないが、単数→複数、複数→単数という。数の不一致は許される。正確に復元可能ならば、隣接する名詞である必要はなく、(意味的に不足がなければ) それが表示されていないこともありうる。また、この

省略は義務的ではないことも挙げられよう。また、今回、現代語で *lo de ~* の例は採集できず、その頻度は低いといえよう。

さて、この用法を通時的にみると、いわゆるスペイン語の文芸作品におけることが観察可能である。これらには、現代語の資料体で今回は見つけることのできなかつた *lo de ~* の例があったので紹介しておく。作品は Gonzalo de Berceo の *Milagros de Nuestra Señora*⁵⁾ である。

(30) *Sennores e amigos, lo que dicho avemos,
Palabra es oscura, esponerla queremos :
Tolgamos la corteza, al meollo entremos,
Prendamos lo de dentro, lo de fuera dessemos.*

(v. 16 a-d)

また、通時的にも *de* 以外の前置詞は観察できなかつた。この用法がかなり安定した形で受け継がれているものであることがいえるのではないだろうか。

このように、かなり早い時期にすでにはっきりとこの用法がみられるということから、その起源については、どうしてもラテン語にまで遡って考えなければならないであろう。それは、今後の課題のひとつとしたい。

4. まとめ

伝統的には「代名詞的」用法と呼ばれてきた、冠詞のこの用法を省略と解釈することは、それを支持する意見や実際の用例を見ることによって得られた成立の条件から考えて、「代名詞的用法」と呼ばれるのと、少なくとも同じだけの理由はあるように思われる。「代名詞的」という言い方は、例えば、フランス語や英語での本来の代名詞を用いた用法に引きずられている感じがしないわけではない。これらの言語とは異なり、形態上、代名詞ではない語によってこの用法が成り立っている以上、必ずしも「代名詞的」とあるということもないであろうと思う。また、江藤(1983)も述べているように、教えやすさからすれば、省略だとする方がよいといえるだろう。

今後の課題は、用例数を増やし、この省略のメカニズムをより明確な形で捉えることである。

【 注 】

- 1) 本稿は、1990年11月24日、関西スペイン語学研究会での月例会において、同名のタイトルで発表したものに加筆、修正したものである。発表の際には、各先生より、多くのたいへん有益な御教示をいただいたことをここに記して感謝します。特に、神戸市外大の福嶋教隆先生と大阪外大の三藤博先生には、貴重な資料を御提供いただいたことを感謝します。
- 2) *cf.* Bosque y Carlos Moreno (to appear).
- 3) 資料体としたのは
EL PAIS (PANORAMA SEMANAL), 1990年 8月13日号 (以後, PAIS とする)
G. García Márquez, El coronel no tiene quien le escriba. MONDADORI, 1987.
- 4) 1990年12月 2 日, 日本イスペインヤ学会第36回大会での研究発表「連結の等位接続における語句の省略について」において提出されたアンケート結果。
- 5) Clásicos Castellanos, 44. ESPASA-CALPE, 1982.

〔参 考 文 献〕

- Álvarez Martínez (1989) El pronombre, I. ARCO/LIBROS.
 Badia i Margarit (1975) Gramàtica catalana, I. ed. Gredos.
 Barrerà et al. (1983) Curs de gramàtica normativa. I. C. E., Universitat de València.
 Bello (1982) Gramàtica de la lengua castellana. EDAF.
 Bosque y Carlos Moreno (to appear) Las construcciones con *lo* y la denotación del neutro.
 Brucart (1987) *La Elipsis Parcial*. Sintaxis de las lenguas románicas. ed. el arquero.
 Carrera Díaz (1984) Curso de la lengua italiana, I, parte teórica. Ariel.
 Grinder & Postal (1971) *Missing Antecedents*. Linguistic Inquiry, II.
 江藤一郎 (1983) スペイン語のいわゆる「定冠詞の代名詞的用法」について. 天理大学外国語教育. 9.
 池上岑夫 (1987) ポルトガル文法の諸相. 大学書林.
 Kingston (1937) The Syntax of Castillian Prose. Univ. of Chicago Press.
 目黒三郎他 (1981) 新フランス広文典. 白水社.
 Modern Language Association (1973) Modern Spanish. Harcourt Brace Jovanovich Inc.
 Moliner (1983) Diccionario de uso del español. ed. Gredos.
 富野幹雄他 (1981) ポルトガル語の入門. 白水社.
 Whitley (1986) Spanish/English Contrasts. Georgetown Univ. Press.